

✓ファイル 5

株式会社ユアーズ

店舗内での業務に障害者を多数雇用。障害者への理解を深めるため、新入社員をはじめ若手社員が「ゆあーずの森づくり」事業に参加



企業情報

昭和54年（1979年）5月設立。総合食料品・日用雑貨を扱うスーパーマーケットとして、広島県をはじめ、岡山・山口・福岡4県で店舗を展開。地域に根ざし、「価値」と「価格」を訴求した品揃えで、ときめきと選ぶ楽しさのあるお店づくりを進め、また新たな取り組みとして、【DELICHE（デリシェ）】（Delicatessenデリカテッセン+Marcheマルシェ）をコンセプトに、オリジナル総菜と地産地消をテーマにし、生鮮食品を強化した店舗を展開している企業。



PROFILE

- ◆所在地 広島県安芸郡海田町南堀川町4-11
- ◆代表者 代表取締役社長 根石 紀雄
- ◆電話番号 (082) 823-8609
- ◆店舗数 63店舗
- ◆常時雇用労働者数 2,644人
- ◆障害者雇用数 43人

人事部 野本部長さんにインタビュー

Q. 障害者雇用にどのように取り組まれましたか？

平成24年度（2012年度）から3年計画で、障害者雇用率を2%に引き上げる取り組みを行っていましたが、昨年6月に、広島労働局から9.5人の不足数を5人未満に減らすよう指導を受けました。それから、ハローワーク・人事部・受入可能な店舗の店長・支援機関（市発達障害者支援センター、就労移行支援事業所等）でプロジェクトを組み、説明会や現場見学会を行い、就労移行支援事業所等から紹介いただいた10数名の中から知的障害者及び精神障害者の方（勤務時間週20～30時間）を9名採用しました。職場定着が課題ですが、就労移行支援事業所からは、弊社の事情や業務内容を理解してもらった上で適任者をご紹介いただいていますし、就職後も直接障害者を支援してもらおうなど、支援機関と顔の見える付き合いができるようになり、大変助かっています。



野本部長さん

また、平成25年度（2013年度）から広島市立広島特別支援学校や県立呉特別支援学校と連携を図って、今年から新規卒業生を採用しています。特別支援学校の生徒の実習の時に、精神障害の社員が指導係になったのですが、非常に

いい関係になり、指導した社員のモチベーションのアップにもつながり、お互いの能力の向上が見られたので良かったと思います。特別支援学校卒業生の採用は、来年度も1名の採用が決定しています。

今後、障害者雇用に関しては、上限を設けず、マッチングできる方は採用したいと思っています。

**Q. 障害者を雇用する上での課題はありますか。また配慮されていることは何ですか？**

職場での障害への理解という点が一番難しいですね。店長やチーフには、事前に採用する人の状況を説明し、ある程度は障害について理解した上で対応してもらっていますが、実際に指導を行う社員まで情報が伝わっていないなどの問題があります。受入側の社員の精神的な負担をどう軽減するか、障害者が働き続ける職場環境をどう整えるかこれから考えていきたいと思っています。



ゆあーずの森づくり

また、お客様からのクレームにも苦慮しました。これは、コミュニケーションを取ることが苦手な精神障害を持った社員の接客態度についてお叱りを受けたのですが、なるべく売り場に出ないように仕事を配慮し、当事者の保護者からの提案で障害者である旨を知らせる名札をつけることで対応し、クレームは無くなりました。国の方で障害者雇用をしていることを知らせる表示（マーク）を作ってもらえれば、本人の意思でネームプレートに付けるなどして、お客様に自然に理解してもらうことができるとと思います。基本的には、各店舗に丸投げせず、何かトラブルがあれば人事担当が必ず間に入って対応するようにしています。

**Q. 障害者雇用に関して独自の取り組みはありますか？**

社員の障害者理解を深めるため、入社1年目から3年目の社員と県立三原特別支援学校生徒との交流の場『ゆあーずの森づくり（三原市本郷町中央森林公園）』に取り組んでいます。年1回、桜の苗などの植樹を通して交流を行っていますが、別れ際はお互い涙涙で、とても感動的な光景です。若手社員の中に意識改革ができつつあると考えています。

**Q. 今後の課題と新たに障害者を雇用しようとする企業へのメッセージをお願いします。**

支援機関との連携が大事だと思います。障害者の雇用に関しては、一般の社員と同様に、「戦力となる人材」として採用後も育成するつもりで採用することが望ましいと思います。

**職場訪問**



商品補充



作業場清掃



レジ部門



水産部門